



令和元年度 日本大学 学生 FD CHAmmiT NEWS LETTER



CHAmmiTの醍醐味

CHAmmiT の醍醐味といえば、皆さんは何を思い浮かべますか？毎年違うテーマ？それとも教職員と密になって話せること？皆さんの中でも CHAmmiT の醍醐味はこれ！と思い浮かべている人は少なからずいると思います。今回は CHAmmiT の醍醐味について語りたいと思います。



理工学部
(駿河台校舎)

目次

- 1 活動内容について
- 2 しゃべり場①
- 3 しゃべり場②・③
- 4 しゃべり場④での解決策と強化策



歯学部
(付属歯科病院)

開催場所はどこ！？

今回の開催場所は、御茶ノ水にある理工学部（駿河台校舎）と歯学部の2学部を跨いだ初の共同開催となりました。オープニング・エンディング会場は歯学部の付属歯科病院を使用し、しゃべり場会場は理工学部の教室と CST ホールを使いました。

編集：

令和元年度 日本大学 学生 FD

CHAmmiT 学生スタッフ

磯部 耕志郎（危機管理学部危機管理学科3年）

石原 諭衣（法学部政治経済学科3年）

竹田 匠（商学部経営学科2年）他一同

発行：

日本大学 FD 推進センター

お問い合わせ：

日本大学本部学務部学務課

〒102-8275

東京都千代田区九段南4-8-24

電話：03-5275-8314

E-mail：adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/>

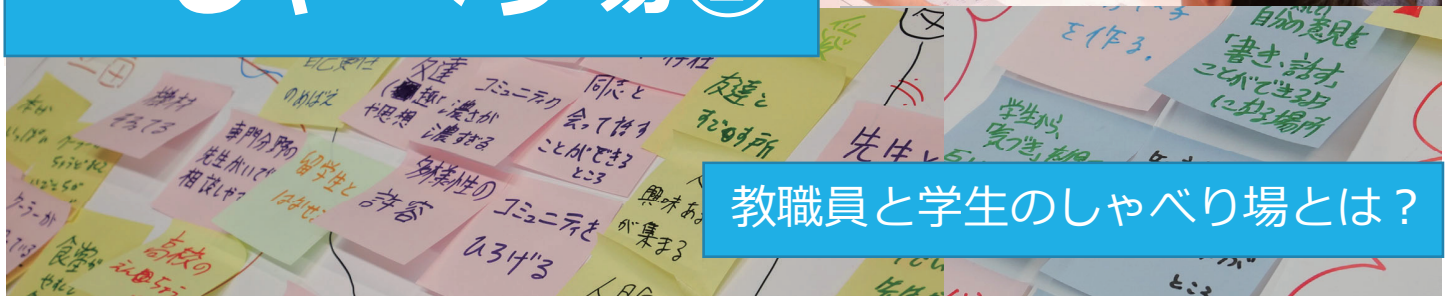
学生スタッフ 活動内容

6月から本番までの約半年間に毎月ミーティングを行い、活動してきました。広報の活動としては、SNSに投稿を行う以外にもポスター作成などを行いました。企画の活動としては、本番のオープニング・エンディング・しゃべり場のファシリテーターとして活動しました。



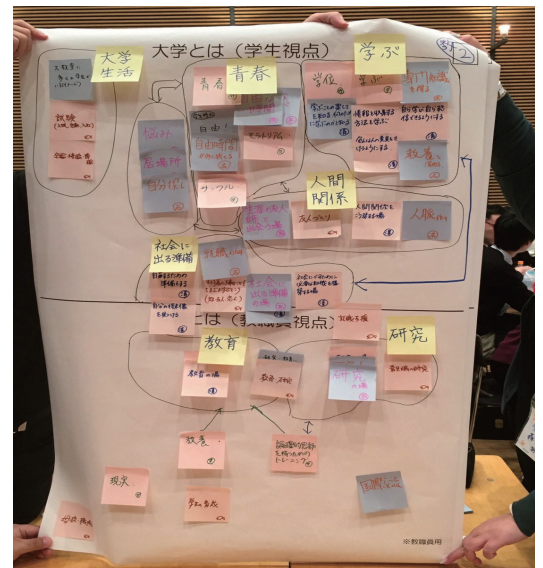


しゃべり場①

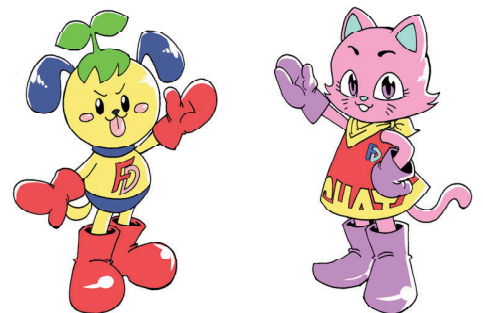


教職員と学生のしゃべり場とは？

そもそも、今回の企画内容の「大学とは。」というテーマですが、学生と教職員の双方で考えていることは同じなのではないでしょうか？お互いに大学は「どのような場所」だと考えているのでしょうか？この互いの意識の共有は、教育改善をしていく上で欠かせないものであると考え、本テーマに決めました。しゃべり場①では、学生と教職員が分かれて「大学とは（学生視点）」と「大学とは（教職員視点）」をそれぞれの視点で主観と客観の両方の意見を出し合いました。これは、分かれることにより、お互いの意見が集約されやすいと考えたためです。その結果、とても盛り上がったものになり、学生も教職員も思っていたことをそれぞれで共有できたため、しゃべり場③に繋がるためのよいスタートを切れました！



CHAmMiT マスコットキャラクター
フラワードッグくん (左), チャミットちゃん (右)



CHAmMiT は、今年で7回目の開催となりますが、今回は両者の考えがまとまっており、より深く理解することができたしゃべり場になったと思います。改めて多くの人に「日本大学 学生FD CHAmMiT」を知ってもらおう機会になったのではないかと思います！

しゃべり場②・③



～他花受粉から私にとっての大学を探る～

学生にとっての大学とは？

CHAmiT の醍醐味といえば、他花受粉もその一つではないでしょうか？今年のCHAmiTでは、学生のみ他花受粉を行いました。しゃべり場①だけでなく、しゃべり場②でも他学部の学生と沢山の意見を共有し、より多くの意見を吸収してもらいました。

他花受粉の結果、学生側の「大学とは（学生視点）」では「**社会に出るための準備**」という意見が一番多くありました。また、「**自由**」「**交流**」といったような意見も多々ありました。一方、学びに関する意見も存在しましたが、主に「**スキルアップ**」や「**価値観を広げる**」といった「**社会に出るための準備**」の一部に含まれる意見があがりました。学生が客観的に考えた「大学とは（教職員視点）」では、大多数で「**職場**」「**研究**」「**教育**」という意見があり、一部では「**学び**」「**交流**」といった意見もありました。教職員側では、しゃべり場③で教職員グループの倍以上ある学生グループとのしゃべり場をスムーズに行うための準備として、しゃべり場①の模造紙の複製をして頂きました。ご協力ありがとうございました！

そして教職員にとっての大学とは？

しゃべり場③では、学生側の模造紙と教職員側の模造紙を一つに繋ぎ合わせ、内容を共有しました。しゃべり場①で学生と教職員を分けたことにより、それぞれの立場で思っている本音を理解でき、模造紙を合体したことによって比較がし易くなりました。学生側の意見は前述の通りです。教職員側が客観的に考えた「大学とは（学生視点）」では「**学修**」「**交流**」「**自由**」「**社会に出るための準備**」の4つが大半を占めていました。「大学とは（教職員視点）」では、学生側の意見と同じく「**職場**」「**研究**」「**教育**」という意見が多かったです。双方の意見を見ると、学生側と教職員側に大きな隔たりは見られませんでした。

共有後は、しおりを用いて自分にとっての「大学とは。」の作成をしてもらいました。しゃべり場①～③までを通しての自分が思う「大学とは。」の考え方の変化を参加前と比較してもらいました。また参加者によっては、参加前と変わらない人もいます。しかし、他の参加者の考えを知ることによって新たな気づきに繋がることがあります。結果として、しゃべり場③では今後の自身の大学生活にとって価値があるものを見出せたと思います。

～しゃべり場④「大学とは。」はどのようなものになったのでしょうか～

さいごのしゃべり場④では、学部ごとに集まってしゃべり場③まで話したことを振り返り、お互いにとっての大学はどのようなものになったのか、再確認を行いました。話し合った後、各学部に沿った独自の「大学とは。」を考え、「学生の求めるもの」と「教職員が提供できるもの」という双方の意見を出し合いました。同じキャンパスに在籍しているのにも関わらず、学生側の需要に教職員が大学として供給出来ているものもあれば、出来ていないものもあるといった意見が出ました。そして、それらの意見を「解決策」と「強化策」といった形にまとめ、各学部で改善・強化していくことが出来るのかを考えました。学部ごとに解決策も強化策も大きく異なるため、非常に興味深いものとなりました。

16 学部、通信教育部及び短期大学部を見ても、学生が

求めるものは「教職員との交流」をあげている学部が多く、教職員が提供できるものは「知識やスキル」といった意見が多くあげられました。現状では教職員と交流する機会は少なく、学生自身も自ら率先して交流しているとは言えないでしょう。前述のしゃべり場③までの学生と教職員が考えるお互いの「大学とは。」では大きな隔たりはありませんでしたが、しゃべり場④で話し合った各学部のワークシートを分析していくと、学生が求めるものと教職員が提供できるもので少し隔たりがあることがわかりました。現状では、この隔たりを解消するには、一個人の学生だけの影響力では、学部全体を動かすことは大変困難であると考えました。

この CHAmmit のような学生主体のイベントでは、学生の意見はもちろん、教職員とより近い距離感で話し合えることにより学生の意見を共有しやすい傾向にあります。共有することで学生が大学に対しての要望を伝え、徐々に反映してくださる教職員もいらっしゃると思います。しかし、学生の要望を反映し、よりよい日本大学としての姿を目指していくには、一個人の学生の力だけでなく、学部での「学生 FD」団体を設立することでより加速していくと考えています。

結果として、今後の日本大学をより良くしていく上で「学生 FD」

という考え方は欠かせないと考えています。それらを実現するきっかけに「CHAmmit」はあり、今後の FD 活動に繋がることでしよう！

